

はじめに

- 横浜市都市整備局では、福祉の視点からバスへの関心を啓発し、利用を促進するため「交通バリアフリー教室」を行っています。柏尾小学校では、神奈川中央交通株式会社と連携して実施しました。
- 柏尾小学校は、JR 線戸塚駅、市営地下鉄舞岡駅の間に立地しており、周辺は住宅地となっています。駅まではバスを利用することが多い地域です。

1 交通バリアフリー教室の全体概要

- 交通バリアフリー教室は、横浜市都市整備局が担当する
 - ①「バスのバリアフリーに関する座学」とともに、神奈川中央交通の協力のもとバス車両を用いて②「高齢者体験及び車いすの利用・介助体験」をクラスごとに行いました。
 - ①の座学においては、**バスやタクシーのバリアフリーの機能や導入台数、交通事業者を取り巻く現状、モビリティマネジメントの大切さ等**、様々な“知識”を伝えました。
 - ②の体験授業においては、バス車両を用いて、バスのバリアフリーの機能を見たり、体に重りをつけてのバスの乗降を行うほか、車いすを利用した介助体験を行いました。

■ 交通バリアフリー教室について

【日時】 令和3年 11月 25日 (木)
1～3校時

【対象】 横浜市立柏尾小学校
4年生 1～3組 (94名)

【内容】

- ①バスのバリアフリーに関する座学
- ②高齢者体験及び車いすの利用・介助体験
→クラスごとに分かれて実施

学校近くのバス停



2 「バスのバリアフリーに関する座学」の内容

- 座学では、『もっと知りたい「バス」のこと』と題して、車いすの方もお年寄りも、「誰もが使いやすい」を目指して取り組んできたバスのバリアフリーや、同じ公共交通機関であるタクシーのバリアフリーの車両について説明しました。
- 駅へのアクセスはバスが多く、柏尾小学校周辺はバスの本数も多いことからバスは身近な乗り物のようで、習い事などへバスを使う児童もいました。
- バリアフリーに加え、バス利用者が減少していることや公共交通の取り巻く現状を伝え、「このまま利用者が減ってしまうとバスが将来、無くなってしまふ」可能性もあることを、マンガリーフレットを用いて伝えました。
- 今後は「便利なクルマに頼りすぎず、バスで行ける所はバスで行くこと」を日頃から心掛け、家族や友人などと少しずつ実践してほしいことを伝え、授業を終えました。

■ 座学に用いた教材

①説明用パワーポイント:

もっと知りたい「バス」のこと



②小学生向けマンガリーフレット



バリアフリー体験の様子

おわりに

- 柏尾小学校では総合の授業で福祉について学んでおり、福祉の授業の一環として今回の交通バリアフリー教室を実施しました。
- 交通バリアフリー教室を経験して、**車いすで移動することや足が上がらない状態でのバス乗降の大変さ**を感じた児童がたくさんいました。
- バリアフリーの体験の後は神奈中バスの運転士さんからバリアフリーに限らず、バスの様々なことを学んでいました。
- 今回のバリアフリー教室により、子どもたちがバスへの関心をもち、**バスを上手に使い、またバスで困っている人をサポートするきっかけ**となってほしいと思います。